

平成 28 年度指定管理者モニタリング結果

施設名・住所	千歳市営牧場・育成畜舎（千歳市駒里1032番地の1ほか）
指定管理者	公益財団法人道央農業振興公社 理事長 松尾 道義
指定期間	平成24年4月1日から平成29年3月31日（5か年）
評価担当	産業振興部農業振興課

1 実施事業及び内容等	・育成牛の通年管理 放 牧 5月15日～10月15日（154日間） 育成畜舎 4月1日～5月14日、10月16日～3月31日（211日間） ・預託牛の入退牧業務 ・預託牛の健康管理及び授精に付帯する業務 ・採草地、飼料畑の生産管理に関する業務 ・農業機械及び牧場施設の管理業務 ・市営牧場利用料の徴収業務 ・管理報告業務 等
2 年間利用者数	市内の一部酪農家の農場で、飼養牛に法定伝染病が発生し、市営牧場での受入れができなかったことにより、平成28年度の年間利用数（延受入日数）は、前年比で5.1%の減少となった。 【主な利用状況】（ ）は平成27年度実績 ・預入酪農家戸数 21戸（23戸） ・放牧346頭（359頭）、夏季入牧72頭（93頭）、育成畜舎287頭（295頭） ・延受入日数 97,186日（102,421日） ・管理業務の利用状況【資料1】
3 事業収支 ＜決算状況（税込）＞	・収入合計【資料2】 42,545,323円（44,232,715円） 【主な内訳】（ ）は平成27年度実績 - 指定管理料 21,034,285円（21,034,286円） - 利用料金 21,261,200円（22,808,750円） ・支出合計 42,541,030円（43,879,120円） ・管理経費の収支状況 4,293円（ 353,595円）
4 管理運営状況	・市営牧場・育成畜舎の公共牧場として有効かつ効率的な活用を図るため、利用者で組織する「千歳市営牧場利用者協議会」の意見を聴取し、利便性の向上に努めている。このほか、新規利用者の拡大を図るため放牧案内も実施している。 ・通年雇用臨時職員3名（うち主任2名）、期間雇用臨時職員4名のほかに管理課長（兼任）を配置し、管理の充実を図っている。 ・管理人住宅に職員を常駐し、緊急時の連絡体制を整えている。 ・電気牧柵による牧区分割管理を行い、放牧地の効率化を図っている。 ・協定書第32条に基づき、個人情報取り扱いを適正に行っている。 ・平成28年度は、市営牧場・育成畜舎の利用者に対して5年間の指定管理期間の意見を改めて確認するとともに、利用していない酪農家の意見・要望を把握するため、アンケート調査を実施している。【資料3】 ・アンケート結果を踏まえて、石狩農業改良普及センターと毎月協議しながら、良好な牧草やデントコーンが収穫できるよう、施肥や収穫時期を決定するなど適切な飼料管理を行っている。また、預託牛の栄養不良などを防止するため、獣医師の指導を仰ぎ、対象となる牛には、個別に給餌を行うなど対応を強化している。
5 自主事業の達成状況	・防疫上の観点から、自主事業は実施していないが、定められた管理業務を円滑に遂行している。
6 市民サービスの向上を図るための取組	・利用者で組織する千歳市営牧場利用者協議会の意見・要望を聴き、施設を有効活用するため、8月に夏季入牧を実施し、サービスの向上を図っている。 ・冬期間でも、牛が24時間水分補給できるように、給水器の不凍化を図っている。
7 評価 ＜総合コメント＞	・受入環境の向上に努め、預託牛の良好な飼養管理が行われている。 ・北海道石狩家畜保健衛生所、石狩地区農業共済組合等との緊密な連携により、預託牛の健康管理や防疫管理の徹底が図られており、利用者が安心して預託できる牧場の運営に努めている。 ・牧場管理職員による専門性や特殊性を生かしたサービスの提供、ノウハウの活用により、良好な管理運営が図られている。

管理施設の利用状況

月	月初在頭数	入牧頭数	退牧頭数	月末在頭数
4	195	0	36	159
5	159	260	73	346
6	346	0	12	334
7	334	0	14	320
8	320	72	39	353
9	353	0	13	340
10	340	0	94	246
11	246	0	21	225
12	225	0	7	218
1	218	0	7	211
2	211	0	6	205
3	205	0	19	186
計		332	341	

管理経費の収支状況（税込）

【収入】

（単位：円）

項 目	内 訳	金 額	備 考
受託収入	千歳市営牧場・育成畜舎指定管理料	21,034,285	
使用料金収入	千歳市営牧場・育成畜舎利用料金	21,261,200	
雑収入	貯金利息	130	
	配合飼料市況対策費	81,540	
	粗飼料分析推進強化対策費	7,560	
	免税軽油に係る地球温暖化対策税還付金	5,088	
	パイオニアデントコーン種子奨励金	155,520	
	収 入 合 計	42,545,323	

【支出】

項 目	内 訳	金 額	備 考
人件費等	給料手当	13,173,814	
	臨時雇賃金	3,194,214	
	法定福利費	2,432,946	健康保険、厚生年金等
	福利厚生費	81,591	職員検診費等
	小 計	18,882,565	
修繕費	農業機械修繕	1,298,052	トラクター、ジャイロテック等農業機械
	施設修繕	1,022,544	給水器不凍化、井戸ポンプ等
	小 計	2,320,596	
賃借料	自走給餌車	375,192	
	借上車両・農機具他	223,836	ハイダンプワゴン、フロントローダー等農機具借上げ
	小 計	599,028	
車両費	車両費	403,163	ダンプカー、家畜運搬車車検
	車輛任意保険料	220,882	
	小 計	624,045	
施設管理費	機械警備料	259,200	
	消防設備点検	65,800	
	産業廃棄物処理料	44,928	廃プラスチック処理
	小 計	369,928	
原材料費	肥料・種子	11,265,414	
	薬品他	503,711	消石灰、ネックンバー、牧柵補修材等
	貯蔵品	-895,446	ラップサレージ
	小 計	10,873,679	
旅費交通費		26,460	公共牧場会総会出席等
研修・講習会費		235,450	公共牧場会研修会参加費、職員大型免許取得費等
会議費		68,192	
通信費		163,196	
印刷消耗品費		533,657	
水道光熱費		1,003,609	
燃料費		1,432,633	
租税・公課		8,900	
負担金		15,000	公共牧場会負担金
飼料費		2,192,028	
手数料		53,688	免税軽油申請、粗飼料分析
委託料	千歳市営牧場に係る調査業務	1,269,000	NOSAI業務委託料
消耗備品費		325,120	通路用ゴミマット、農業用高圧洗浄機
雑費		26,559	
保険料	損害賠償責任保険	110,190	
消費税		1,407,507	
	支 出 合 計	42,541,030	

【収入】 - 【支出】

4,293

【資料3】

千歳市営牧場・育成畜舎の運営に関するアンケート調査結果〔(公財)道央農業振興公社〕

1 アンケート回答率(調査件数 45件 平成28年7月実施)

- 回答数 18件(回答率40.0%)
- 牧場利用者の回答数 15件(利用者からは、21戸中15戸から回答があり回答率は71.4%)

2 アンケート結果

(1) 市営牧場・育成畜舎の利用状況

利用している〔14〕 利用していない〔3〕 利用していたがやめた〔1〕

(2) 夏季入牧(8月)を含めて、今後の市営牧場の利用

5月からの利用を希望する〔12〕 夏季入牧を希望する〔9〕
利用しない〔2〕(育成牛がいない、今で十分飼養可能)

(3) 市営牧場を利用するにあたっての課題

満足している〔4〕 利用料金が低い〔1〕 受入れ頭数が制限される〔3〕
飼養管理技術のレベルが十分でない〔5〕 施設及び用地が狭い〔2〕
その他〔3〕 ・飼料の確保 ・病気等の心配

(4) 入牧の時期について

5月15日で良い〔14〕(草丈によって前後するのは、より良い)

(5) 夏季入牧の実施について

このままで良い〔15〕

(6) 夏季入牧の希望回数

年1回で良い〔15〕 回数を増やした方が良い〔1〕(年2回、8月、10月)

(7) 入牧日は、2日間で実施しているが、1日とすることについて

このままで良い〔5〕 都合がつかない場合の対応があれば1日で良い〔11〕

(8) 入牧前実施の感染検査について(小型ヒトプラスマ病原虫寄生率、牛白血病拡散、牛ウイルス性下痢・粘膜症)

このままで良い〔16〕 追加した方が良い〔1〕(状況に応じて)

(9) 冬期間の飼料用として、コーンサイレージを調製したことについて

量が確保できるので、続けた方が良い〔8〕 できるだけ配合飼料を多くした方が良い〔7〕
その他〔1〕(全頭が健康に管理できればいい)

3 利用者からの新たな意見・要望

- ・コンディションの良くない乳牛の管理が悪い。また、預託したことによって、栄養状態が悪くなったケースがあることから、管理内容を見直すべきだと思う。
- ・牧草に窒素成分（肥料成分）が多いのではないか。
- ・市営牧場が利用できなくなれば、経営がなり立たないので、今後とも宜しくお願いする。

4 対応状況

- ・設問（３）に対し、関係機関・団体と連携し、飼養管理技術の向上に努めている。
- ・設問（４）（７）に対し、入牧は曜日に関わらず５月１５日としているが、利用者の都合がつかない場合は個別対応としている。
- ・設問（２）（５）（６）に対し、継続して夏季入牧を実施している。
- ・設問（８）に対し、入牧前の感染症検査について実施している。
- ・設問（９）に対し、飼料の適期収穫・デントコーンラップサイレージの調製など、冬期間の飼料と敷料の確保に努めている。